



横濱港頭を飾る新燈臺と外防波堤

内務省横濱支本出張所長

春木節郎

(1) 横濱港外防波堤港口に於ける南北兩堤と巨船の入港。

開港以來80年の光輝ある歴史を誇り、將又帝都の玄關として躍進日本に権要なる地位を占める横濱港頭に、新裝成つたゴシック式燈臺が東京灣頭を照明しつゝある。

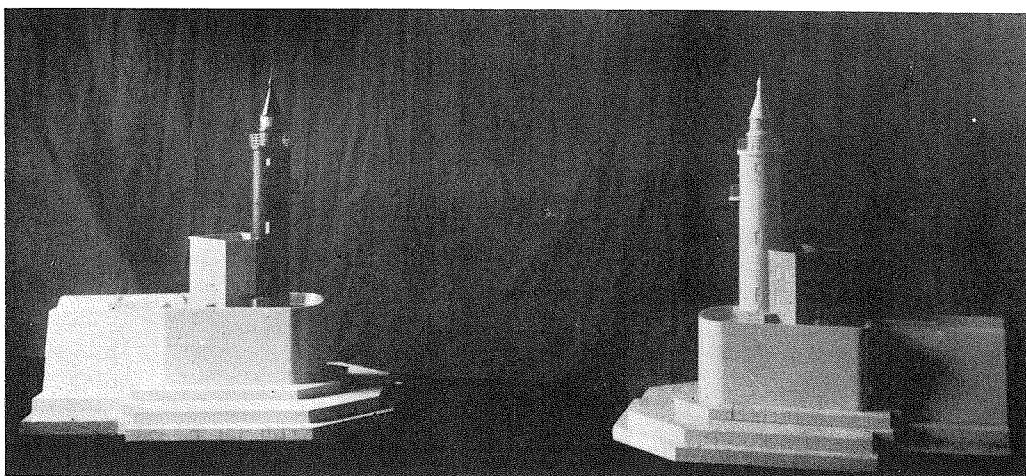
本燈臺は異國情緒豊かなる本牧と、近代科學の粹を集結したる鶴見工業地帶とを結ぶ外防波堤延長3,600米の中央に幅員270米の港口を挟んで、赤白2基對峙し、我邦を訪れる幾千幾萬の船舶に最初のインター・ビューを試

み印象を深める點に於て特殊の使命を有するものである。

我邦で珍らしいこの閃光する燈臺は、ゴシック式尖頂を有し、武士道華かなりし頃の城廓を偲ばすものがある。4等燈臺とし海面上の高さは20米、光芒は灣内13浬に達する。

燈臺の基礎になつた堤頭函は全重量1,500噸を超へ、構造の基調は横濱式水平ラーメン型である。

(2) 南北兩燈臺の模型・赤白2基。



コンクリート容量	611立米
鉄筋重量	32噸
高	10米
長	16.9米
底幅	12.3米
壁厚	0.6米
吃水(平均)	8.4米

港口を挟んで竣工間近の南北兩堤は紺碧の海に白亜の堤體を連ね、宛も城壁の如く、船舶の碇繋に安全な水面は830萬平米に及ぶ。この南端(右端)本牧にはやがて我國最初のヨット港が造成せられ、國際的競技の豪華版が展開されるであろう。

(3) 新築
なつた燈臺
の全景。

(4) 燈臺の基礎となつた堤頭函塊。

